

霧ヶ峰基金会報

2008年3月号(通算21号)

発行：特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

〒393-0061 長野県諏訪郡下諏訪町3236番地 Takafactoryさま2階

TEL/FAX 0266-78-1505

e-mail kieigamine-fund@zd.wakwak.com

URL <http://kirigamine-fund.jp>

ブログ 「霧ヶ峰のWA!」 <http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>



いと“をかし”

2月23日、諏訪地域の5市町をまたいで行なわれたイベント「スウィッチ」に、霧ヶ峰基金も運営スタッフとして、また出展者として参加いたしました。出展会場は「4satかみすわ“をかし”まつり」の行なわれた諏訪市内です。イベントのテーマは「いと“をかし”」。古語では「面白い、興味深い、心惹かれる」という意味を持つ、この言葉をキーワードに、霧ヶ峰の「いと“をかし”」をご紹介します。

水のこと、春の花のこと、景色のこと……ほんのちょっぴりでも伝わっていらしたら、幸いです。

今回の「4satかみすわ“をかし”まつり」では、会員様のご協力で霧ヶ峰の水を提供いただき、霧ヶ峰の水を他の地域の水と飲み比べて味わっていただいたり、昨年の諏訪市雑木処理作業で伐採された樹木を利用して、諏訪ロータークラブさまが菓子楊枝を作ってお客さまに提供したり、イベントのスパイスは「霧ヶ峰」というすばらしい機会に恵まれました。

多くの皆様のご協力、ご来場、誠にありがとうございました。

(担当：降旗香代子)

【ご報告】理事長の交代、理事辞任のお知らせ

2008年3月25日に開催された理事会において、理事長三井健一が一身上の都合により辞任願を提出し、2008年3月31日付けで理事長を辞任することになりました。定款に基づき後任の理事長の選任を理事会で行い、理事内の互選の結果、2008年4月1日付けで、副理事長小原宏文が理事長に、副理事長に理事降旗香代子（事務局長兼任）が就任いたします。

また2008年3月31日付けで、三井健一、笹山大介、田代紀子が一身上の都合により、理事を辞任いたします。在任中には会員のみなさまを始め、多くの方々にとにかくならぬご支援・ご協力をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

ごあいさつ

霧ヶ峰基金は発足から3年目に入ります。その間、御射山ビジターセンター（ヒュッテ御射山）を拠点にエコツアーリズムの普及、啓発、霧ヶ峰の保全を目指し日々邁進してまいりました。これらはすべて会員のみなさまをはじめ多くのかたのご支援の賜物であり、この場を借りて心より感謝を申し上げます。

多大なご支援のある中、先月ご報告いたしましたとおり、諸事情により活動拠点を移し新年度から活動することになりました。これは、今後活動を続けるためにはやむを得ない選択であることをご理解いただけますようお願い申し上げます。霧ヶ峰基金では、エコツアーリズムの普及・啓発、霧ヶ峰の環境保全を推進するため、今後の活動を再構築し、長期、中期、そして2008年度の活動計画を改めて立案いたしました。

エコツアーは2008年度も複数回計画いたしております。さらに今後のエコツアーの充実と霧ヶ峰の魅力（＝資源）の再発見のため各種調査を行います。項目としては、過去の草原利用実態調査、現在の八島湿原周辺のモニタリング調査及び情報GIS化、未来の草原資源の活用調査、遊歩道の整備・検討を行います。また、活動報告会、会員親睦会・交流会を計画中でございます。詳細は、会員さま対象の説明会ならびに次号の会報でご報告いたしますが、理事一同、どの計画も会員みなさんのご参加をこころからお待ち申し上げている次第であります。活動の成果は短期間では目に見えるものではございませんが、みなさまと共に霧ヶ峰に理想の花が咲くようにがんばりたいと考えております。今年度も霧ヶ峰基金へのご支援を宜しくお願い申し上げます。

（副理事長 小原宏文）

2008年4月1日以降の役員構成（予定）は以下のとおりです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長：小原宏文

副理事長：藤田香、降旗香代子（事務局長兼任）

理事：梅谷匡尚

監事：西村増夫、宮坂正之

中長期目標及び2008年度事業計画についての方向性について

2008年3月8日、社員（正会員）を対象に会合を持ち、今後の運営方針の確認及び20年度活動計画の検討がなされました。

今後ともNPO法人霧ヶ峰基金は、「霧ヶ峰の環境を持続可能な形で利用する、霧ヶ峰型エコツアーリズムの確立」を目指して活動を継続していくことを再確認いたしました。

長期目標を「かつての採草地としての草原利用から、霧ヶ峰の自然環境の保全が可能かつ現代に合った利用方法の再構築」と位置づけ、中期目標を「霧ヶ峰のもつ資源価値（歴史、文化、エネルギー資源、観光、経済的効果などの多角的な視点による）の再発見」としました。

そうした長期・中期目標にいたる個別の事業について、2008年度は、

- ・調査活動（植生、水質など）の充実、成果の公表・活用
- ・エコツアーの実施及び人材確保
- ・快適な登山道を保持するための提案、試行、評価
- ・GIS（地理情報システム）を利用したデータ収集の開始
- ・かつての草原管理方法についての情報収集
- ・霧ヶ峰にまつわる史料や伝統文化についての収集、データ化などを実施していく案が提出されました。



これらをもとに2008年度事業案、予算案の組み上げを行い、5月下旬（予定）の定期総会で正式決定を行ないます。

会員のみなさまへ 説明会のおしらせ

理事会より、平成19年度の活動経過の報告及び平成20年度の活動方針の詳細につきまして、説明会を開催いたします。

2008年4月19日(土) 10:00~12:00
どうぞお誘いあわせの上、お出かけください。

諏訪市 湯小路いきいき元気館 3階・会議室

霧ヶ峰の資源的再構築について

当法人は「霧ヶ峰の環境を持続可能な形で利用する、霧ヶ峰型エコツーリズムの確立」を目的として、2006年5月に発足いたしました。

当初は霧ヶ峰の御射山に拠点をもち、「ヒュッテ御射山」の運営を中心とした活動を行ってききました。しかし、残念ながら昨年末にヒュッテ取得を断念することとなり、霧ヶ峰における活動の拠点を失うこととなり



ました。主な活動の拠点を霧ヶ峰から失うことは、法人として大きな打撃を受けることであり、法人の存続を左右する事態となりました。

しかしながら「現在まで御支援いただいた皆様の付託に背くことはできない」

「当法人は、霧ヶ峰の環境保全のために果すべき使命を達成していくべきではないか」などの意見が出され、法人が活動していく価値はまだあるものとし、活動の指針として中長期目標を設定しました。



今回、3月8日の話し合いを持つ中で法人の活動としての中期的、長期的な目標を立てました。これは、当法人が霧ヶ峰の中における役割を明確化することと、法人の目的を達成するために踏んでいく段階をはっきりさせることが必要であったためです。目標の段階としては次の様にしました。

短期的目標としては2008年度の活動計画を実施していくことにより、霧ヶ峰の現状や当法人活動の再評価を



していくことしました。各種調査や資料情報の収集等を図りながら霧ヶ峰の現状を把握し、エコツアー等の活動を通じながら人材の育成をすることにより、法人の活動も含めた評価をし、各種問題点や課題をはっきりさせていきます。

中期目標としての「霧ヶ峰のもつ資源価値の再発見」は、これら再評価から明確化してきた課題や問題点をクリアしていくことや、具体的な解決の方法を発見していくことで、新たな観点をもつことによる再発見をすることとなります。

また、収集してきた情報や霧ヶ峰の現状を分析する中で、考古学的な観点や歴史資料、諏訪神社関連、江戸時代からの入会権に関する文献史料、人々が霧ヶ峰と関りあう上で作り上げた文化、日常生活より必要とした牛馬の飼料、農耕作に用いた刈敷としてのエネルギー資源、

ピーナスライン無料化に伴い増加し続けている観光客、それを迎入れる観光地としての在り方、経済的効果、などを含めた多角的な視点から、資源価値の再発見をするものです。今まで気付くことのなかった潜在的な価値を発見することも、今回の中期目標にあてはまります。



再発見を重ねていき、より多くの観点や視点を持つことで霧ヶ峰の持っている資源を把握、理解をしていくことにより長期目標とする「霧ヶ峰の自然環境の保



全が可能かつ現代にあった利用方法の再構築」につなげていくことができると考えています。

(副理事長 藤田香)

ご支援ありがとうございます。

2008年2月1日～2月29日までの間に、39,546円の寄付金をいただきました。

いつもご支援ありがとうございます。霧ヶ峰のために大切に活用させていただきます。

ご寄付をいただいたかたのお名前の取り扱いについて

2008年4月より、寄付金をいただいたかたにつきまして、金額に関わらず、ご本人様が希望されない場合を除いてお名前をご紹介します。あらかじめご了承ください。

NPO 法人霧ヶ峰基金のご支援をしてくださっている法人会員のみなさまです



株式会社エルシーブイさま



信州総合開発観光株式会社さま



株式会社永田製作所さま



株式会社クリンビーさま

NPO 法人霧ヶ峰基金は活動を支援してくださる企業・団体さまのご入会を随時受け付けております。

お問い合わせはNPO 法人霧ヶ峰基金事務局 (0266 78 1505) にて承ります。

NPO 法人霧ヶ峰基金では、当法人の運営方針に賛同し、事業提案、法人運営、企画実施と一緒にして下さる正会員（定款上の社員、議決権あり）を若干名募集しています。

定款はNPO 法人霧ヶ峰基金ホームページ (<http://kirigamine-fund.jp>) をご覧ください。

興味をお持ちの方は NPO 法人霧ヶ峰基金事務局に電子メールでお問い合わせください。

e-mail kirigamine-fund@zd.wakwak.com (担当：降旗)

ご連絡をお待ちしております。

活動記録 (2008年2月1日～2月29日)

2月	8日	・諏訪アライアンスプロジェクトさいか 打ち合わせ
	9日	・蓼科東急リゾート、スノーシューツアー実施
	10日	・臨時総会開催
	16日	・蓼科東急リゾート、スノーシューツアー実施
	17日	・蓼科東急リゾート、スノーシューツアー実施
	18日	・諏訪サブリ 打ち合わせ
	21日	・「松本広域観光フォーラム2008」 聴講
	23日	・「スウいち」上諏訪会場「4sat かみすわ“をかし”まつり」出展
		・会報2月号、発行
	24日	・蓼科東急リゾート、スノーシューツアー実施

(2008年2月末日現在) 個人特別会員72名 個人一般会員84名 法人会員4団体 正会員11名

ブログをリニューアルオープンしました。



2007年12月からお休みをいただいていたブログ「霧ヶ峰・みさやま通信」にかわり、

ブログ「霧ヶ峰のWA！」(<http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>)

が、オープンしました。

和みの「和」、つながりを表す「輪」、感嘆の「わ！」を込めて「霧ヶ峰のWA！」というタイトルになりました。NPO 法人霧ヶ峰基金の活動の様子や霧ヶ峰にまつわるあれこれなどお伝えしてまいります。ご愛読どうぞよろしくお願ひいたします。

編集後記

陽射しが日ごとに濃くなって、雪原にいても春の足音は聞こえてくるような気がします。

春のという言葉の示すところは「張る」、つまり「命が張る（膨張）する」季節なのだと言及折口信夫（国文学者、民俗学者 1887～1953）は推測しています。一見静謐に見えた冬でも、雪原に暮らす彼らはエネルギーを蓄え（この様子を折口は「殖ゆ」＝「冬」であると述べている）きたるべく春に次世代へのバトンを手渡す準備を進めていました。そのエネルギーを発露する季節はすぐそこです。

多くの動物達もこれから、出産・子育ての命はぐくむ季節を迎えます。

草原に暮らす、これから出会う命のきらめきたちを思うと、くらくらするほどです。か